序章　研究のねらいと問題の所在……9

第1節　研究の前提、問い、仮説、課題
——1990年代タイにおける国有林地内農地を巡る競合と民主化——……9

1. 研究の前提と問い……9
2. 研究上の仮説……13
3. 研究の課題……16

第2節　課題・仮説の時代的背景と既存研究の評価・批判……17

1. 課題および仮説の1990年代民主化という時代的背景……17
2. 既存研究の評価・批判と本研究の方法的核心……18

第3節　本研究のアプローチ上の三つの柱と各概要……25

第4節　本論文の構成……32

第1章　1990年代における東北タイの土地利用と「森林地」内農地の態様……35

第1節　タイ、特に東北部の自然的条件と土地利用……35

1. タイ各地の自然的条件……35
2. 南部、北部、中部の景観と土地利用の特徴……38
3. 東北部の土地利用の特徴……39

第2節　東北タイにおける「森林地」内農地の態様……44

1. 東北部内の農地間に見られる質的な幅と「森林地」内農地の立地……44
2. 東北タイにおける「森林地」内農地の態様……50

第２章　東北農民の土地利用動態とタイ国家による「森林地」の形成
――「森林」対「農地」を巡る競合の根本要因――……55

第１節　東北部の人口と土地利用の動態……56

1. 東北部の人口動態……57

2. 東北農民の土地利用動態……66

第２節　タイ国家による「森林地」の形成と東北部におけるその展開……69

1. タイにおける「森林地」指定制度の法的展開と各法の内容……70

2. 東北部における保全林域および保護林域指定とその展開……80

第３章　「森林地」内農地問題の発生・泥沼化
――1960年代～1970年代における広範な「森林地」内農地の形成と背景――……85

第１節　「森林地」内農地の生成と森林局側の制度設計・適用上の問題……86

第２節　一時的民主政下での政策的迷走と不法侵入の加速……89

1. 国有保全林指定の進展に伴う農民運動要因の蓄積……89

2. 一時的民主化と保全林開放策……91

第３節　内戦下における不法侵入・違法開墾の黙認と推進……101

1. 治安当局の占有民への宥和的姿勢と共産ゲリラ対策……102

2. 対共産ゲリラ政策の展開と「不法侵入者」への処遇変化……105

第４章　「森林」対「農地」に関わる軍・森林局の優勢と半分の民主主義体制
――内戦の終焉と1980年代～1990年代初頭の「森林地」内農地を巡る闘い――……115

第１節　1970年代に準備されていた「森林地」内農地政策とその不執行……120

第２節　内戦終結、軍事政権の勝利と軍・森林局による政策支配 123
1. 1980年代～1990年代初めの重要政策と執行結果……123
2. 森林局による限定的用益権付与政策と背景……126
3. 軍による緑化および農地調整計画と開発・環境分野への進出……129
第３節　政党および占有農民による対抗的な動き……134
1. 大政党の政策を巡る動きと「森林地」取り消しの不実現……135
2. 占有農民による蜂起、ネットワーク形成、組織化……142

第５章 「森林地」内農地を巡る持続・多極化する攻防と民主主義体制
――1990年代における問題の大々化・拡大と民主政下の闘い――……149

第１節　1990年代民主化期における「森林地」内農地を巡る政策展開…151
1. 政策展開の概略……151
2. 主たる政策の執行状況……153
第２節 「農地」化政策の進行と占有農民運動の攻勢、政党政治の進展……157
1. 軍計画の中止・ポスト軍計画の展開と占有農民の攻勢、民選政府の受容……158
2. 民主党の政権獲得と農地改革政策の大前進……166
3. 東北タイ小農会議の攻勢と農地改革の保護林域への拡大……169
4. 農民運動の再編とチャワリット内閣による保護林の解放・開放策…179
第３節　農地改革を巡る政党の動向と民主政下の政策推進・逆行メカニズム……186
1. 第一次チュアン政権の農地改革推進を巡る光と影……188
2. 農地改革政策推進に絡む政党政治家の動きと背景……190
3. 「抜け穴」決議の取り消し・移譲地の再返還と森林消失メカニズム 194

第４節　保護林再防衛策と「保護派」の登場および政権政党の変身…196
1.「保護派」の保護林開放・解放策に対する反対運動……198
2. 保護林再防衛策とその詳細……204
3. 保護林再防衛策と民主党の変身……210

第６章　内戦の最激戦地から「森林」対「農地」攻防の最前線地へ
―1990年代の問題源流地の過去と現在―……223

第１節　1990年代のある最前線地の概要と時代区分……223
1. 農地も広がる国立公園―調査地における土地利用の特徴……223
2. 後れてきた森林対農地フロンティア――調査地の土地利用の来歴……226
3. 1990年代における問題の最前線地としての顕在化……227
4. 最前線地の時代区分……228

第２節　森林の残存と内戦の影響……229
1. 保全林指定以前と防共・反共政策による占有農民の移動……229
2. 共産勢力による大規模伐採の阻止……230
3. 不文律と戦闘激化……232

第３節　内戦の終焉と資源を巡る紛争の発生……234
1. 内戦の終結と新たな競合構造の生成……234
2. 土地・資源戦争の発生……236
3. 元共産ゲリラの出遅れと軍・森林局の監視……238
4. 軍による農地調整計画とその前史および顛末……240

第４節　保護林化、農民組織の介入と競合の大々化・熾烈化……243
1. 国立公園化と合法的な一方的指定……243
2. 小農会議による問題地指定と占有農民の攻勢……244
3. 森林局の反撃と軍の再介入……246
4.「不法」開墾者の正体と1990年代の開拓最前線地としての国立公園域……247

5. 農民組織の再攻勢と交渉舞台の成立、決裂……252
6. 保護林再防衛策下での農地拡大と森林局の「森林地」防衛……256
7. コーミュニット・国軍の新しい協調関係と「森林地」の開発……259
8. ポスト1990年代と持続する農地の拡大……262

第7章　1990年代民主化期タイにおける森林消失の政治的メカニズム
——「森林地」内農地を巡る競合展開との関係から——……265

第1節　「森林地」内農地の形成・維持史と1990年代における森林耕地化の新要因……265

第2節　森林耕地化の新要因と民主化期における森林消失の政治的メカニズム……271

第3節　今後の課題……275

[図表一覧]……279
1. 表番号・タイトル　279
2. 図番号・タイトル　280

[引用、参考文献]……282
タイ語　282
日本語　288
英　語　291

あとがき……294